

## 学校支援を積極的に進める

# 持続可能な学校支援体制の構築を目指して

大口町立大口中学校 P T A

### 1 はじめに

愛知県北部、豊かな自然に囲まれた大口町の中心部に、大口町立大口中学校は立地している。町内二つの中学校が統合し、「新生大口中学校」が誕生して本年度で17年目を迎える。生徒数は682名、21学級（通常学級19、特別支援学級2）に達する。すぐ近くを流れる五条川は、生徒たちの心を癒し、清らかな水で生命を育んでいる。



【大口中学校校舎】

校舎は、著名な建築家・黒川紀章氏の設計によるものであり、その独特なデザインは地域に新たな風を吹き込んでおり、大口町のシンボルとして町民から親しまれている。

### 2 研究への取組

#### (1) P T A組織

本校のP T A委員組織は、運営委員・地区委員・協力委員により構成されている。

運営委員は、会長・副会長（2名）、書記、会計、会計監査（2名）の合計7名で構成されており、年に4回運営委員会を実施し、P T A活動の方針や課題などについて積極的に議論している。

地区委員は、11の地区から、世帯数に応じて選出された30名で構成されており、専門委員会に所属し、活動の充実を図っている。専門委員会は、文化委員会・厚生委員会・生活委員会の三つを組織し、以下の表のとおりの目的・内容に従い、活動している。

協力委員は世帯数の多い地区より選出され、あいさつ運動や資源回収など、比較的人数が必要な活動の補助をしている。

専門委員会名	活動目的	活動内容
文化委員会	会員の研修等を実施し、会員自身の資質向上を図るとともに、学校内外の文化水準向上に寄与する。	・文化講座企画・運営 ・ふれあいまつり出展
厚生委員会	生徒の保健・安全面の整備改善、学校給食の充実に協力する。	・学校保健委員会等への参加 ・校内見学企画・運営
生活委員会	生徒の校外における安全ならびに、家庭・社会の環境整備と健全育成に協力する。	・ふれあい立ち当番 ・制服等リユース活動 ・夏休み街頭補導

【専門委員会について】

## (2) 研究のねらい

現在、社会構造や意識の変化に伴い、さまざまな組織において「持続可能な仕組みづくり」の必要性が叫ばれており、PTA活動も例外ではない。多くのPTA組織において、コロナをきっかけに、これまで取り組んできた活動の見直しが行われていると認識しているが、それが持続可能なものであるかどうかという視点が重要である。

「学校支援」を考えたとき、支援を「お願いする側」と「お願いされる側」が存在し、そこに上下関係が発生すると、持続可能なものにならないと考える。そこで、文部科学省答申「これからの学校と地域の連携・協働の在り方」に示された「学校を核とした地域づくり」の視点を参考にし、「一人一人の活躍の場を創出する」という視点でPTA活動を見直し、学校を支援してくださる方の行動や意識の変化に着目し、取組を進めていくこととする。

## 3 実践活動の概要

### (1) 専門委員会の取組

#### ① 文化委員会の取組

##### ア PTA文化講座の企画運営

コロナの影響により中断していた文化講座も、令和4年度から復活した。令和5年度は「豆から楽しむ！COFFEE講座」を実施した。いずれも、文化委員を中心に、保護者会員の興味関心に基づいて、企画運営を進めている。また、講師はできる限り町内の人材を活用し、地域の方にPTA活動に関わっていただくことで、地域と共に学校を支えていこうという気持ちを高めるように努めている。

##### イ 大口町ふれあいまつりへの出展

11月上旬に行われる大口町の「ふれあいまつり」への出展では、多くの団体と日頃の活動をPRしながら交流することができる。毎年、千本釣りをを行い、多くの親子連れに楽しんでもいただきながら、大口中学校PTAの活動や雰囲気を知



【ふれあいまつり出展】

っていただく機会となっている。前日準備から当日まで、文化委員の協力により成り立つこの活動では、終えた後の達成感や、町民の一人としてイベントに関わられたという心地よさが感じられるものとなっている。

#### ② 厚生委員会の取組

##### ア 学校保健委員会への参加

年3回実施される学校保健委員会への参加は、全ての保護者に

呼びかけをする中、厚生委員に関しては約9割の方が参加してくださっている。「発育状況」「命」「性」などをテーマに実施するため、我が子の家庭での様子と結び付けて、当事者意識をもって参加されている方が多い。特に、本校では令和4年度より健康教育の研究を進めており、生徒がよりよく生きるための学校生活の在り方や家庭との連携など、保護者目線での意見が貴重なものとなり、子どもたちを支えている。

#### イ P T A委員向け学校公開への参加

コロナ前に実施されていた校外研修は、令和3年度よりP T A委員向けの給食試食会を含む校内見学会へと形を変えた。全ての保護者を対象とした学校公開日は年に2回しかないことから、普段の子どもたちの授業ではない時間帯の様子も見学したいとの要望から誕生したこの企画は、学校のありのままの様子を見ていただく機会となっている。校内施設の様子も見ていただき、保護者目線での意見が貴重なものとなり、学校経営の支えとなっている。

### ③ 生活委員会の取組

#### ア あいさつ運動

毎月第1金曜日の朝7時50分から8時10分まで、学校付近を中心に8箇所に分かれ、登校してくる子どもたちと元気な挨拶を交わすことを目的に取り組んでいる。特に正門付近の活動では、町役場の方や町内各種団体の方などが参加してくださり、活気あふれる活動となっている。



【ふれあい立ち当番活動】

また、この機会を通して、保護者の方からP T A活動に関する質問を受け付けたり、町内のN P O団体の方と、地域の行事への中学生ボランティア参加に関する連絡調整をしたりするなど、月に一回の貴重な交流の場としても機能している。

#### イ ふれあい立ち当番活動

年に3回、期末テスト初日の午後に、子どもたちの安全な下校を支える目的で取り組んでいる。また日頃、登下校の様子を見ることのない保護者の方に、通学路の危険個所についての確認も行っていただき、毎年10月に実施される、町内の通学路安全推進会議にも、その意見を反映させ、安全な通学路整備に向けて支援していただいている。

#### ウ 制服等リユース活動

卒業した生徒から集まる、まだ使用可能な制服等の学用品を、年に2回の学校公開の機会にリユース活動を通して、必要として

いる方に提供している。限りある資源を大切にするという視点からも価値が高いこの活動も、事前の準備を含め、生活委員の皆様には大変お世話になっている。事前準備で確認した学用品の内容やサイズを事前に保護者連絡アプリで知らせることで、当日の混雑が緩和されるなど、回を重ねるごとに改善されている。また、第2回は小学6年生への提供も行うため、入学前の保護者にPTA活動の雰囲気を知っていただくよい機会となっている。

#### (2) 体育大会のサポート

数多くの教職員の運営により成り立つ体育大会では、手薄な部分が出てくることが多い。そこでPTA委員の皆様には、子どもの写真撮影の補助を依頼している。

今年度は、多くのSDカードを用意し、学校のカメラに加えて、各自の使い慣れたカメラでの撮影も許可したことで、昨年度以上に多くの支援を受ける

ことができた。一般の保護者席からではなく、子どもの近くからの撮影ができるということもあり、積極的に写真撮影をしてくださる方が多く、生き生きと活動する子どもの様子を記録に残すことができた。



【体育大会写真撮影サポート】

#### (3) 地域学校協働本部との連携

本校の校舎内には、大口町の地域学校協働本部が設置されており、そこでは、本校を含む町内四つの小中学校の支援ボランティアの活動を支えている。特別支援学級の学習サポートや、図書館の本や花壇の整備など、学校によって活動はさまざまだが、その組織の存在や活動内容について、PTA委員会において適宜お知らせしてきたこともあり、PTA委員をされていた方が、我が子が卒業したあとも学校支援ボランティアとして活躍してくださっている方が複数名存在する。

なぜボランティアの登録をしてくださったのか尋ねたところ、PTA委員として学校に関わったことにより、学校や子どもたちを支援したいという気持ちが高まったとのことだった。

## 4 おわりに

今回の研究を通して、学校を支えることの価値をいかに発信していくかが大切だと感じた。研究のねらいにも示したように、支援をお願いする学校とお願いされる保護者の間で上下関係ができてしまえば、お互いに苦しい思いをする可能性がある。決して無理をすることなく、できる範囲で楽しみながら学校を支え、そこで気付いたことを学校に伝えることで学校にもよい変化が見られるといった循環を意識し、支えてくださる保護者の方の「やってよかった感」が高まっていくことを大切に今後も活動を続けていきたい。